

災害は 起きてから では遅い

考えよう 起きたときのこと

令和元年東日本台風では、県内各地で甚大な被害が発生しました。

災害の多くは突然襲ってきますが、被害はある程度予測が可能な災害です。

自分や家族の身を守るためには、身の回りの災害リスクを正しく知り、リスクに応じた避難行動をあらかじめ考えておくことが重要です。

皆さんは、いざというときに、どのような行動ができますか。



大郷町／令和元年東日本台風による吉田川氾濫の様子(大郷町提供)

01 普段から決めておきたい 災害からの避難行動

災害から命を守るための行動として、避難行動があります。災害発生時には「自らの命は自ら守る」という「自助」の考えのもと、身の危険を感じたら迷わず自主的に避難することが重要です。

口頭から市町村が作成しているハザードマップなどで、自宅に災害の危険性がないか確認してみましょう。危険がある場合は原則として自宅の外への避難が必要になるため、避難場所や安全に避難するための経路も併せて確認しましょう。

02 マイ・タイムラインで 逃げ遅れゼロへ

「マイ・タイムライン」とは、風水害の発生に備えて、一人一人の家族構成や生活環境に合わせて、「いつ」「だれが」「何を」するのかをあらかじめ時系列で整理した自分自身の避難計画です。

いざというときに慌てず安全に避難行動を取る助けになるなど、避難行動のチェックリスト、判断のサポートツールとして、「逃げ遅れゼロ」に向けた効果が期待できます。

避難に必要な情報・判断・行動を把握してマイ・タイムラインを作成し、「自分の逃げ方」を見つけましょう。

03 台風や豪雨のときは 市町村からの避難情報を確認

台風や豪雨時には、気象台などが発表する注意報や警報、市町村から出される避難情報を必ずチェックしましょう。テレビやラジオ、市町村のホームページなど、さまざまな方法で発信されています。市町村から避難情報が発表された場合には、警戒レベルが併せて発表されます。危険な場所にいる人は、警戒レベル「3」が出たら高齢者や避難に時間がかかる方が、警戒レベル「4」が出たら地域の皆さん全員が速やかに避難行動をとり、安全な場所へ逃げてください。

あらかじめ決めておきたい避難方法や市町村から出される避難情報のポイントについて、次のページを確認しましょう。

知事コラム 村井が走る



災害時に心掛けていること

知事に就任してから今日まで岩手宮城内陸地震、東日本大震災、令和元年東日本台風、新型コロナウイルス感染症など多くの災害に見舞われてきました。大きな災害が起こるたびに対策本部を立ち上げますが、その際、私が最も心掛けていることは、少しでも早く正しい情報を県民の皆さんに伝えるということです。熊本地震の際にライオンが動物園から逃げたという誤った情報が流布されました。また、コロナ禍でもトイレトイレットペーパーなどの家庭必需品が品不足になるといったうわさが広まり、スーパーなどで混乱が起きました。危機的状況に陥ったときに情報を小出しにするとそのようなことが起こってしまいます。また、いったん正しい情報を隠しているのではないかと県民の皆さんが疑心暗鬼になると、信頼を得るまでに大変時間がかかってしまいます。そうしたこともあり、宮城県は対策本部会議でのやり取りを全てマスコミにオープンにしています。当然、会議の場では非常にナーバスな問題を取り扱う場面もあり、できれば内部で議論した方がよいと思われるときもありますが、そうしたことを恐れ、大切な情報を正しく伝えられなければ本来の役割を失ってしまいます。どれだけ準備しても災害からの被害をゼロにすることはできません。その都度正しい情報を的確に県民の皆さんに伝えるよう今後も最大限の努力を続けてまいります!

宮城県知事 村井 嘉浩

03 台風や豪雨のときに確認しよう 自分の命は自分で守る

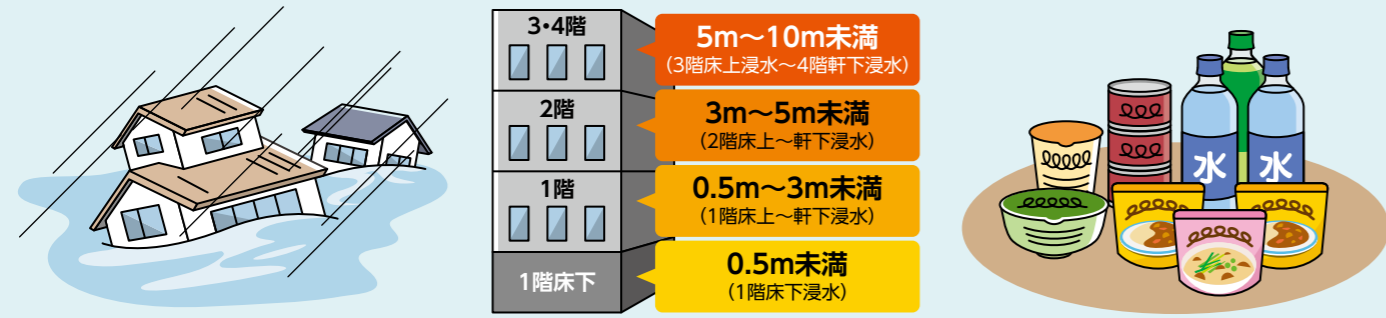
安全な場所にいる人は、避難場所に行く必要はありません

避難とは難を避けること、つまり安全を確保することです

自宅が安全な場所かどうかはハザードマップや自宅近くの地形などを確認し、状況を見て判断しましょう。

浸水の危険があっても、次の3つが確認できれば、自宅に留まり、安全確保をすることも可能です。

- 1 洪水により家屋が倒壊または崩落する恐れの高い区域でない
- 2 浸水する深さよりも高いところにいる
- 3 水・食糧などの備えが十分にあり、浸水しても水が引くまで我慢できる



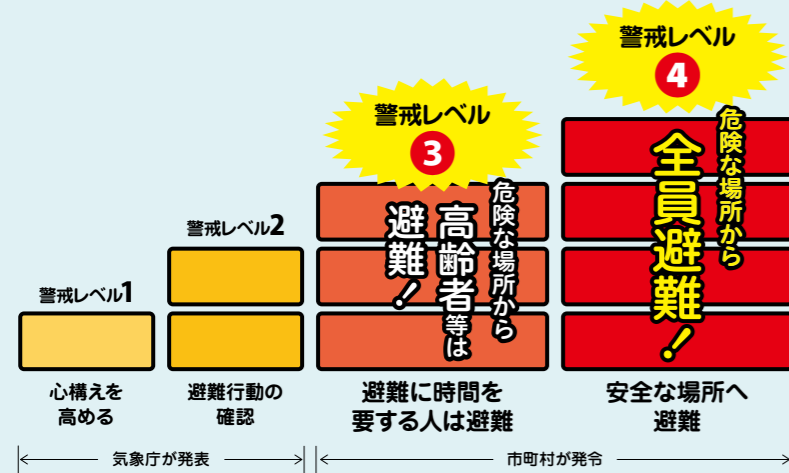
土砂災害の危険があっても、十分丈夫なマンションなどの上層階に住んでいる場合は自宅に留まり安全確保をすることも可能です。

警戒レベル4避難勧告が発令されたら危険な場所にいる人は全員が避難を

危険な場所にいる人は警戒レベル3で高齢者などは避難、警戒レベル4で全員避難です

警戒レベル4避難勧告は、立ち退き避難に必要な時間や日没時間などを考慮して発令されます。

このタイミングで危険な場所から避難する必要があります。

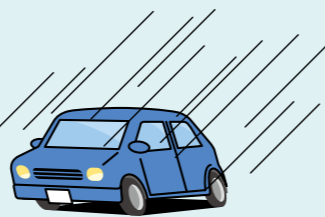


豪雨時の屋外避難は危険です 車での避難も控えましょう

警戒レベルに関わらず、天候を見て避難行動を決めましょう。

警戒レベル5はすでに災害が発生しています

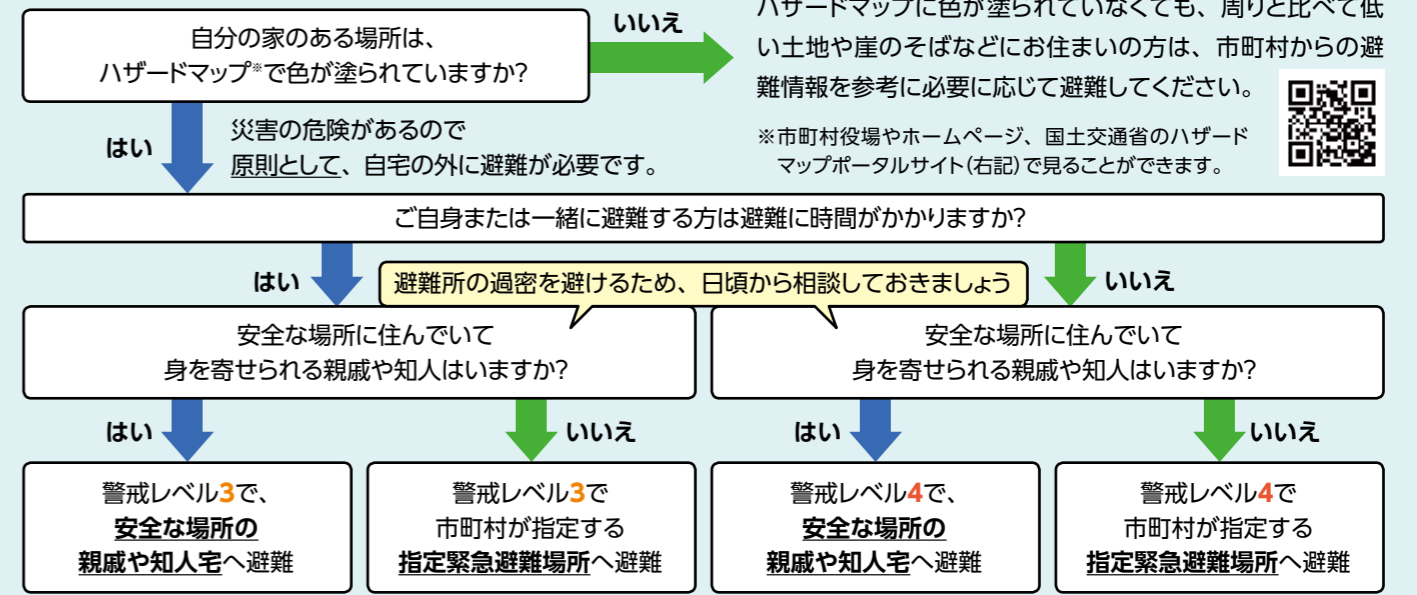
自宅外に避難をすることは危険な状況となるので、警戒レベル4までに避難することが重要です。



<p>避難情報については</p> <p>☎ 危機対策課防災対策班 ☎022(211)2375</p>	<p>マイ・タイムラインについては</p> <p>☎ 危機対策課地域防災班 ☎022(211)2464</p>
--	---

01 普段から決めておこう

災害からの避難行動



02 マイ・タイムラインをつくろう

*警戒レベルや防災気象情報は以下の順番で発表されるとは限らず、あくまで目安です。

避難方法や確認する情報を基に避難のための情報を書き込み、切り取って保管しておこう。

警戒レベル	1	2	3	4	5
市町村の発令する避難情報を確認しましょう。(※は仙台管区気象台発表です。)					
	早期注意情報(※)	注意報(※)	避難準備・高齢者等避難開始	避難勧告 避難指示(緊急)	災害発生情報
避難行動の参考にする防災気象情報にチェックしましょう。					
<input checked="" type="checkbox"/> 大雨		大雨・洪水注意報	大雨・洪水警報		災害発生
<input type="checkbox"/> 河川の氾濫		氾濫注意報	氾濫警戒情報	氾濫危険情報	
<input type="checkbox"/> 土砂災害				土砂災害警戒情報	
<input type="checkbox"/> 高潮		高潮注意報	高潮警報		
県の河川情報は こちら	<p>行動</p> <p>例* 避難時の持ち物確認 避難経路再確認 祖母と息子の避難準備開始 祖母と息子の避難開始</p> <p>大雨など気象情報の収集 自分と妻の避難準備開始 自分と妻の避難開始</p>				避難場所
※持病のある祖母と妻、息子と4人暮らししているAさんの例					

避難時の持ち物 ※家族の状況に合わせて用意しましょう

- 水、携帯食料
- ヘルメット、軍手
- 貴重品
- 水、缶詰
- マスク、消毒液
- 衣類
- 救急医薬品、常備薬
- モバイルバッテリー、懐中電灯、携帯ラジオ
- その他